



学内広報



2003. 10. 8
東京大学広報委員会

学生表彰「東京大学総長賞」の授与式行われる



総長と受賞者による記念撮影

(3ページに関連記事)

目次

一般ニュース	2	の21世紀」展内覧会が行なわれる、宇宙線 研究所附属乗鞍観測所創立50周年記念式典 開催される
部局長の交代、部局長退任挨拶、学生表彰 「東京大学総長賞」の授与式行われる、学 術研究奨励資金による国際交流助成事業の 採択決まる		掲示板
部局ニュース	5	「東京大学の生命科学」シンポジウム、「理 学系研究科・理学部ニュース」第35巻3号 (9月22日)の発行、生産技術研究所千葉 実験所公開、コンピュータ・ネットワーク 利用セミナーのお知らせ
農学系学生サービスセンター開設される、 平成16(2004)年度大学院新領域創成科学 研究科入試結果について、平成16(2004) 年度大学院学際情報学府修士課程入学試験 結果について、国際共同展示「シーボルト		事務連絡(人事異動(教官、事務官)) ...
		淡青評論
		「障害のある学生への授業や実習の“情報 保障”」

≡ 一般ニュース ≡

部局長の交代

このたび、次のとおり部局長の交代があった。

部局長名	新部局長	旧部局長
大・済	神野直彦	岩井克人

大学院経済学研究科・経済学部

神野直彦 教授

(任期：平成15. 10. 1～平成17. 9. 30)



昭和44. 6 経済学部卒業
昭和56. 9 大学院経済学研究科
博士課程単位取得退学

平成4. 4 教授(経済学部)

[所属講座・研究部門]

現代経済専攻 財政金融講座

[専門分野]

財政学・地方財政論

[研究内容(代表的な著書や論文等)]

「財政学」(有斐閣)、「人間回復の経済学」(岩波書店)、

「地域再生の経済学」(中央公論新社)



部局長退任挨拶

退任の挨拶

前大学院経済学研究科長・経済学部長

岩井 克人

2年前の夏に研究科長に選出された時、一時は真剣に経済学研究科を辞めることを考えました。悩んだ末に、結局は引き受けてしまいました。それが正しい決断であったかは、未だに分かりません。ともかく、この2年間は、東京大学にとっても、経済学研究科にとっても、私にとっても、本当に大きな変動の時期でした。研究科長になった途端に、こなさなければならない仕事や解決しなければならない問題が次から次へと襲ってくるのです。新棟の建設、研究科の引っ越し、入学試験の総監督、定年延長をめぐる論争、高度専門職業人プログラムの検討、研究科組織の再編、概算要求の準備、中期目標中期計画の作成、公共政策大学院の設置、巨額の寄付金の受け入れ、処分問題、米国流の講師選考方式の導入、丸の内サテライトオフィスの開所、21世紀COEプログラムの申請と立ち上げ、UT2004、教官への委員の委嘱、研究科予算の作成、数多くの人事選考、沢山の挨拶、そして何よりも法人化をめぐる会議、会議、会議……。これらの公的な仕事に加えて、研究科長になる前に約束してあった原稿書きや私自身の入院がありました。一昨年の12月に新棟に引っ越してきた私の研究室には、まだ整理のできていない段ボールが山積みになったままです。時間にせき立てられながら、まさに立ち止まる暇もなく、ひたすら研究科長室と本部会議室の中でこの2年間を過ごしてきたというわけです。その間、経済学研究科を、そして東京大学全体を、研究においても教育においても事務においても、より自由で、より活発な活動の場にしていこうと頑張っている人々の足を引っ張ることだけはしないように心懸けるだけで、精一杯でした。

ともかく、2年の任期を無事勤め上げられたことに、安堵しています。今は、出来る限り早く、落ち着いた研究生活に戻りたいの一心です。

学生表彰「東京大学総長賞」の授与式行われる

平成15年度第1回学生表彰「東京大学総長賞」の授与式が、9月30日（火）に農学生命科学研究科「弥生講堂」において、学生及び教職員約300名が参加して行われた。

学生表彰「東京大学総長賞」は、本学学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「他の学生の範となった」「優れた評価を受けた」「優秀な成績を取めた」などの顕著な功績があった個人又は団体に総長が表彰を行うものであり、平成14年度から設けられている。

この表彰は、9月末（秋）と3月末（春）の年2回実施することとされており、今年度第1回の「東京大学総長賞」には、個人6件、団体9件の合計15件の推薦があり、学生表彰選考委員会の慎重な審議の結果、下記のとおり、個人1件、団体4件の計5件が選考された。

授与式では、選考結果の報告の後、総長から受賞者に対し表彰状及び記念品が授与され、総長の挨拶に引き続き、各受賞者から今回の受賞に関するプレゼンテーションが行われた。

運動会少林寺拳法部

2003年関東学生大会優勝等の優秀な成績



総長賞受賞者

(学生部)



挨拶をする佐々木総長

授与式の後、懇談会が持たれ、総長を囲んで受賞者の記念撮影や運動会応援部のリードによる、東京大学応援歌「ただひとつ」の斉唱が行われるなど和やかに進められ、盛況のうちに終了した。

記

〔個人の部〕

新井 裕己

山岳スキー未滑走斜面の初滑降に成功

〔団体の部〕

Cube Satプロジェクトチーム

超小型衛星Cube Satの打ち上げに成功

囲碁部

第46回全日本学生選手権優勝等の優秀な成績

環境三四郎

キャンパス美化等環境問題に対する自主的な取り組み



学術研究奨励資金による国際交流助成事業の採択決まる

国際交流助成事業のうち次の3事業について、以下のとおり助成することを決定しました。

1. 国際交流推進経費助成事業（平成15年度後期）

部 局 名	代表者職・氏名	相 手 機 関 名	派遣 者数	招へい 者数
大学院工学系研究科	助教授 佐藤 徹	シドニー大学（オーストラリア）	1	0
大学院医学系研究科	助手 齋藤 正夫	ルードビッヒ癌研究所（スウェーデン）	1	0
大学院人文社会系研究科	助教授 尾上 圭介	北京日本学研究中心（中国）	1	1
人工物工学研究センター	センター長 新井 民夫	The University "G.d' Annunzio", Dipartimento di Scieze, Chieti, Italy	1	0
大学院新領域創成科学研究科	助手 V. アンブモリ	アンナ大学環境研究センター（インド） シドニー技術大学（オーストラリア） アメリカ農業省農業調査部（米国）	2	3
大学院農学生命科学研究科	教授 杉山 信男	クイーンズランド大学（オーストラリア）	0	1
大学院数理科学研究科	助教授 山本 昌宏	ノースカロライナ大学（米国）	0	1
生産技術研究所	教授 増沢 隆久	釜山大学校機械技術研究所（韓国）	0	9

2. 若手研究者派遣経費助成事業（平成15年度後期）

部 局 名	申請者職・氏名	派 遣 先
大学院医学系研究科	助手 田口 敦子	米国
大学院新領域創成科学研究科	助教授 比村 治彦	米国
大学院工学系研究科	助教授 石川 顕一	フランス
生産技術研究所	助手 芦原 聡	ドイツ
大学院医学系研究科	助手 中村 仁洋	フランス
大学院工学系研究科	講師 山本 晃生	スイス
大学院新領域創成科学研究科	助手 山下 英俊	ドイツ
物性研究所	助手 村岡 祐治	米国

3. 東大シンポジウム開催経費助成事業（平成16年度）

部 局 名	開催責任者職・氏名	シンポジウム名
大学院農学生命科学研究科	教授 渡部 終五	フグ・ポストゲノム研究の現状と展望
大学院医学系研究科	助教授 鈴木 洋史	最先端創薬科学
物性研究所	教授 石本 英彦	量子凝縮系研究の新展開

(研究協力部)

≡ 部局ニュース ≡

農学系学生サービスセンター開設される

農学系学生サービスセンターが10月1日（水）8時30分に開設しました。

農学系では学生サービスの向上の一環で事務部の一部を約2ヶ月間改修し、教務関係事務手続きの集中化、各種掲示物などの情報の一元化を図るとともに学生同士のコミュニケーションや研究・講義の合間を利用してリラックスできるスペースを設置しました。

このセンターのうち、諸事務手続きを行うカウンターをはさんだ学生のためのスペースを「エントランスホール」と称し、このホールには掲示板、証明書自動発行機、カード式複写機などを設置していますが特記すべき点は、講義に関する情報・大学院入試合格発表などの諸情報やニュース・天気予報などリアルタイムな情報を映像やテロップで42インチプラズマモニター2台により学生にお知らせすることです。さらに全学的なものをはじめ本研究科に関する種々の写真やビデオなども逐次放映する予定です。これらのものは電子掲示板専用ソフトウェアによって運用しております。

また、開所時間は、業務については9時から17時までですが、ホールは8時30分から21時までと大幅に延伸し利便性の向上を図りました。

同時にセンター職員は名札を装着するとともに新たに「学生相談窓口」を設置し、センター職員が、「迅速かつ的確そして誠意をもって」をモットーに対応することとしました。

なお、ホールの内壁は暫定のもので現在資材調達中です。数ヶ月後には再び工事を行い完了に至る予定です。



センター入口

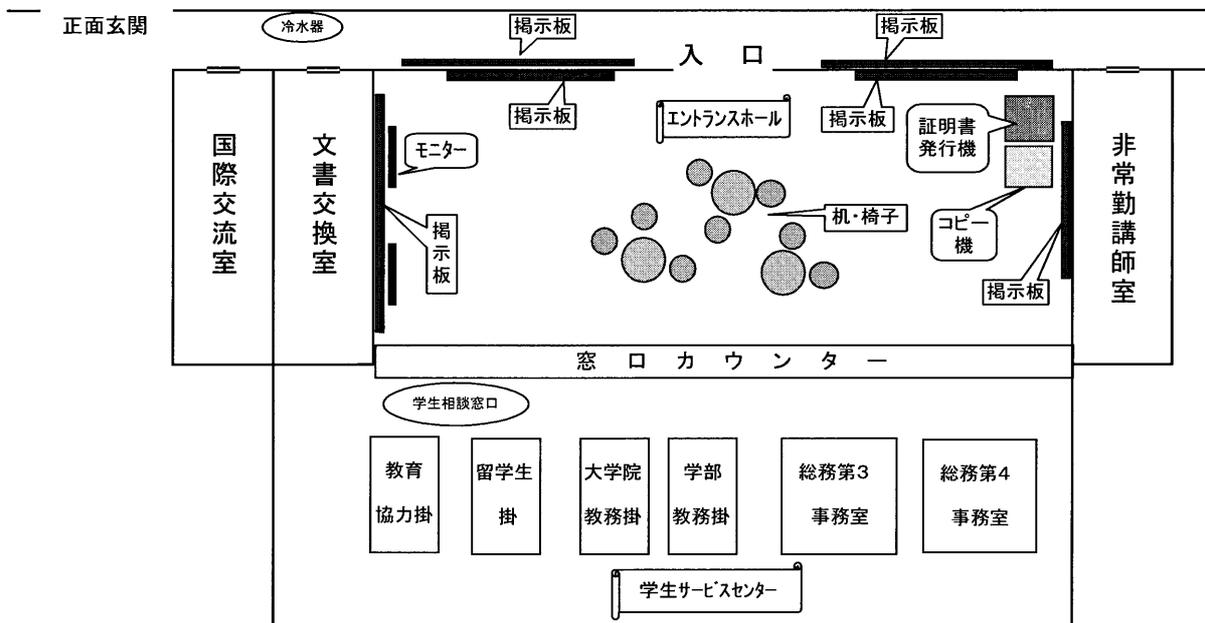


センター内（奥：プラズマモニター）

（大学院農学生命科学研究科・農学部）



【農学部3号館1階】



平成16（2004）年度大学院新領域創成科学研究科入試結果について

大学院新領域創成科学研究科では、平成16（2004）年度大学院入試を行い、9月19日（金）に合格者を発表した。
出願者数、受験者数、合格者数は下表のとおりです。

平成16（2004）年度新領域創成科学研究科 入学試験結果

○修士課程

専攻名	受入 予定 人員	出願者数			受験者数			合格者数			
		合計数	本学	他大学	合計数	本学	他大学	合計数	本学	他大学	
物質系専攻	49	122	28	94	100	27	73	54	23	31	
先端エネルギー工学	13	64(3)	29(1)	35(2)	57(2)	26(1)	31(1)	15	10	5	
基盤情報学	31	103(22)	44(5)	59(17)	75(19)	39(5)	36(14)	43(7)	30(3)	13(4)	
複雑理工学	30	61	17	44	55	17	38	39	16	23	
先端生命科学	60	163(1)	41	122(1)	142(1)	39	103(1)	64	22	42	
環境学（全体）	182	432(17)	111(2)	321(15)	383(17)	102(2)	281(15)	205(8)	67(1)	138(7)	
環境学専攻	自然環境コース	37	78(6)	5	73(6)	70(6)	5	65(6)	48(4)	4	44(4)
	環境システムコース	27	54(1)	14	40(1)	49(1)	14	35(1)	30	11	19
	人間人工環境コース	50	123(5)	55(1)	68(4)	105(5)	50(1)	55(4)	55(2)	30	25(2)
	社会文化環境コース	41	128(2)	30	98(2)	117(2)	28	89(2)	44(1)	17	27(1)
	国際環境協力コース	27	49(3)	7(1)	42(2)	42(3)	5(1)	37(2)	28(1)	5(1)	23
情報生命科学	31	41(4)	10(2)	31(2)	33(3)	9(2)	24(1)	20(2)	8(2)	12	
合計	396	986(47)	280(10)	706(37)	845(42)	259(10)	586(32)	440(17)	176(6)	264(11)	

() 内は外国人を表し内数である。(在日外国人を除く)

○博士後期課程

専攻名	受入 予定 人員	出願者数			受験者数			第1次試験合格者数 ※10月入学者・社会人等特別選抜 (基盤情報学専攻除く)は合格者			
		合計数	本学	他大学	合計数	本学	他大学	合計数	本学	他大学	
物質系専攻	23	18(1)	14	4(1)	17(1)	13	4(1)	13(1)	11	2(1)	
先端エネルギー工学	7	7	6	1	7	6	1	6	6	0	
基盤情報学	14	10(5)	9(4)	1(1)	10(5)	9(4)	1(1)	10(5)	9(4)	1(1)	
複雑理工学	13	6	6	0	6	6	0	6	6	0	
先端生命科学	30	28	23	5	28	23	5	25	23	2	
環境学（全体）	73	70(19)	41(8)	29(11)	67(17)	41(8)	26(9)	55(11)	36(5)	19(6)	
環境学専攻	自然環境コース	15	4(3)	2(2)	2(1)	3(2)	2(2)	1	3(2)	2(2)	1
	環境システムコース	12	9(1)	6(1)	3	8(1)	6(1)	2	7(1)	6(1)	1
	人間人工環境コース	17	19(5)	13(2)	6(3)	18(4)	13(2)	5(2)	15(2)	11(1)	4(1)
	社会文化環境コース	17	24(6)	14(2)	10(4)	24(6)	14(2)	10(4)	18(3)	12(1)	6(2)
	国際環境協力コース	12	14(4)	6(1)	8(3)	14(4)	6(1)	8(3)	12(3)	5	7(3)
情報生命科学	14	4	3	1	3	3	0	2	2	0	
合計	174	143(25)	102(12)	41(13)	138(23)	101(12)	37(11)	117(17)	93(9)	24(8)	

() 内は外国人を表し内数である。(在日外国人を除く)

(大学院新領域創成科学研究科)

平成16（2004）年度大学院学際情報学府修士課程入学試験結果について

大学院学際情報学府には、平成16（2004）年度修士課程入学試験一次試験（筆記試験）を8月26日（火）に、二次試験（口述試験）を9月1日（月）及び2日（火）に実施し、9月5日（金）に合格者を発表した。志願者数及び合格者数は、下表のとおりである。

平成16（2004）年度大学院学際情報学府修士課程入学志願者・合格者数

コース	受入予定 人員	日本人/ 外国人	志願者			合格者		
			本学	他大学	計	本学	他大学	計
学際情報学	約24	日本人	21	68	89	9	18	27
		外国人	2	14	16	1	6	7
		計	23	82	105	10	24	34
実践情報学	約24	日本人	5	39	44	3	14	17
		外国人		8	8		2	2
		計	5	47	52	3	16	19
合計	48	日本人	26	107	133	12	32	44
		外国人	2	22	24	1	8	9
		計	28	129	157	13	40	53

(大学院学際情報学府)

国際共同展示「シーボルトの21世紀」展内覧会が行なわれる

平成15年10月2日（木）16時より、総合研究博物館において特別展示「シーボルトの21世紀」展の内覧会が行われ、オランダ大使館からの招待者や文部科学省研究振興局関係者をはじめ、多くの関係者が出席した。

展示では、日本への西洋文化の移入とその影響、西洋への日本文化の紹介、とりわけ当時の日本文化の要となっていた植物を中心としたコレクションとその研究を紹介しており、シーボルトの来日をもたらした西洋の文物が当時の日本に与えた影響の跡を留めている書物、絵画、器物を展示しているほか、シーボルトが日本の自然と文化の中でもとりわけ注目し、ヨーロッパに伝えようとした日本植物の多様性と「園芸」という分野について、浮世絵や園芸系譜を用いて解説している。

また、今回の特別展は、オランダのライデン大学との共同開催となる博物館初の国際共同展示であり、日蘭修好400年にあたる2000年に同大学から東京大学に寄贈された約400点もの植物標本の一部に併せて、本展示のために借り受けた、シーボルトの収集による貴重な収蔵標本も公開されている。

内覧会に引き続いて行なわれたレセプションでは、森巨元総長、吉川弘之元総長が祝辞を述べられ、19時、盛況のうちに終了した。

開催場所 総合研究博物館（本郷キャンパス内）
開催期間 平成15年10月4日（土）～12月7日（日）
（月曜日休館。ただし、祝休日の場合は開館で翌日閉館）

開館時間 10時～17時（入館は16時30分迄）
（10月4日、11日、18日の各土曜日は17時30分迄開館）

入館料 無料
問い合わせ 03-5777-8600（ハローダイヤル）
URL <http://www.um.u-tokyo.ac.jp>



大場秀章教授（総合研究博物館）から展示の解説を受けるE. サンデルモーレン氏（オランダ大使館）

(総合研究博物館)

宇宙線研究所附属乗鞍観測所創立50周年記念式典開催される

宇宙線研究所附属乗鞍観測所は平成15年8月1日に創立50周年を迎え、その記念式典が平成15年9月20日(土)に長野県南安曇郡安曇村の乗鞍観光センターにて執り行われた。生憎の雨天にも拘らず、会場には地元関係者、国立天文台乗鞍コロナ観測所関係者、乗鞍観測所に縁のある宇宙線研究者及び事務方等、約130名の方々が記念式典に参加され、大変盛況であった。記念式典は瀧田乗鞍観測所長の司会で進行し、吉村宇宙線研究所長の挨拶に引き続き、ご来賓の桜井国立天文台乗鞍コロナ観測所長、筒木長野県安曇村長(加藤助役代読)、小谷岐阜県丹生川村長よりご祝辞を頂いた。安曇村アルプホルン愛好会によるアルプホルン演奏の後、近藤元宇宙線研究所

あった。翌9月21日(日)、連日の雨天にも拘らず、約50名の方々が標高2,770メートルに設置されている乗鞍観測所を訪問した。今年より環境保全のために交通規制が開始され、自家用車による乗鞍岳アクセスができなくなったことに従い、貸切バス及び許可車両による見学者移動を行った。既に引退なさったご高齢の研究者の方々が青年のように目を輝かせて当時の観測記録を読み耽っていた姿が誠に印象的であった。

(宇宙線研究所)



安曇村アルプホルン愛好会によるアルプホルン演奏

長に乾杯の発声をお願いした。歓談後、安曇村御池龍神太鼓演奏に引き続き、ご来賓の西村元宇宙科学研究所長、喜多元東京農工大学長、荒船大学評価・学位授与副機構長、村木名古屋大学太陽地球環境研究所教授よりご祝辞を頂いた。ご来賓の皆様からのご祝辞は、観測所創立当時の苦労話やエピソード、これまでに乗鞍観測所で得られた世界的研究成果等、多岐に渡る大変興味深いもので



吉村宇宙線研究所長による挨拶

≡ 掲示板 ≡

「東京大学の生命科学」シンポジウム

21世紀にはいり、様々な生物のゲノム解読が進み、生命科学は大きな飛躍の時期をむかえています。東京大学では、10を超える学部、研究所で多様な生命の学問研究が進められています。地球上の生命の多彩なひろがり、不思議から人間の病気、心理学まで、東大の様々な領域の研究者から、最先端の話をわかりやすくご紹介するシンポジウムを開催します。多くの学生、院生、教職員の方の参加を期待します。

(入場無料、一般の方の参加も歓迎します)

場所 本郷キャンパス 安田講堂

日時 12月6日(土) 13:00~17:30

主催 「東京大学の生命科学」シンポジウム実行委員会
(委員長 教養学部長 浅島 誠 教授)

13:00~13:20

一條 秀憲

薬学系研究科 生命薬学専攻 細胞情報学教室

「ストレス応答のシグナル伝達と疾患」

13:20~13:40

宮園 浩平

医学系研究科 病因・病理専攻 分子病理学講座

「TGF β シグナルによる幹細胞の分化調節」

13:40~14:00

酒井 寿郎

先端科学技術研究センター・駒場リサーチキャンパス
システム生物学

「LRP5/Wntシグナルと老化；糖・脂質・血管代謝への調節機構」

14:00~14:20

藤原 徹

生物生産工学研究センター 植物機能工学研究室

「ホウ素トランスポーターの単離と応用」

14:20~14:40

太田 秀

海洋研究所 海洋生態系動態部門 底生生物分野

「深海底に化学合成生態系を探る」

14:40~15:00

雨宮 昭南

新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻

「なぜ棘皮動物をとりあげるのか」

コーヒーブレイク 15:00~15:20

15:20~15:40

多比良 和誠

工学系研究科・工学部 化学生命工学専攻 生命エネルギー工学講座

「バイオ・医学の世界を変える小さなRNA」

15:40~16:00

山本 雅

医科学研究所 癌・増殖大部門癌細胞シグナル研究分野

「Tob転写複合体と細胞の増殖・分化の制御」

16:00~16:20

石浦 章一

総合文化研究科 広域科学専攻 生命環境科学系生命機能論

「アルツハイマー病に挑む」

16:20~16:40

山本 正幸

理学系研究科 生物化学専攻

「減数分裂はどのように制御されているか」

16:40~17:00

加藤 茂明

分子細胞生物学研究所 核内情報研究分野

「クロマチン構造と遺伝子発現制御機構」

17:00~17:20

立花 政夫

人文社会系科学研究科 心理学研究室

「網膜における同期的周期的発火と逃避行動」

懇親会 17:30~ 山上会館談話ホール

[連絡先]

「東大の生命科学」シンポジウム事務局

先端科学技術研究センター 分子生物学分野

事務 土居 内線55230 doi@lsbm.org



「理学系研究科・理学部ニュース」第35巻3号（9月22日）の発行

＜サイエンス・ギャラリー＞

平成15年度の21世紀COE採択について	浦辺 徹郎
21世紀COEプログラム	
極限量子系とその対称性	佐藤 勝彦
21世紀COEプログラム	
多圏地球システムの進化と変動の予測可能性	山形 俊男
オープンキャンパス2003：理学部の取り組み	佐野 雅己

＜研究ニュース＞

実験生物ものがたり 8	
メダカの仲間達－ゲノム再編と種分化研究のモデル－	成瀬 清
研究室探訪 第4回	
生命を、見る（梅澤 喜夫教授、化学専攻）	須賀 晶子 寺崎 晴美

＜トピックス＞

第1回理学先端産業懇談会	
「先端的計測で拓く基礎科学の未来」開催される	牧島 一夫
あとがき	武田 洋幸

「理学系研究科・理学部ニュース」は、理学系研究科広報室で無料配布しています。

問い合わせ先：大学院理学系研究科・理学部 広報室
TEL： 03-5841-7585
Email: kishi@adm.s.u-tokyo.ac.jp

(大学院理学系研究科・理学部)



生産技術研究所千葉実験所公開

本所千葉実験所は、駒場キャンパスでは実施が難しい大規模な実験研究やフィールドテストなどのための附属施設です。バイオマスリファイナリー（寄付研究ユニット）の研究、地中熱空調システムなど新しい試みの発信が始まり、また海洋工学に関する実験・研究の前進のために生産研水槽が新しく施設に加わりました。近年とみにこれらの施設の利用が活発になっています。今年は、隔年で実施しています千葉実験所公開を下記の要領で行いますので、是非この機会にご覧ください。

日時 平成15年11月14日（金） 10：00～16：00
場所 生産技術研究所千葉実験所
〒263-0022 千葉市稲毛区弥生町1-8
J R 総武線西千葉駅下車 北口から約250m
問い合わせ 生産技術研究所千葉実験所事務室
せ先 電話 043 (251) 8311

公開テーマ

- ・コンクリート構造物の耐久性向上技術の開発 (魚本研究室)
- ・スチール・スウィングによる振動実験 (大井研究室)
- ・鉄骨接合部の高速載荷実験 (大井研究室)
- ・基礎杭利用による地中熱空調システムの開発 (大岡研究室)
- ・水の安定同位体から見る水循環機構 (沖研究室)
- ・円管内旋回流の乱流統計量に関する研究 (加藤(千)研究室)
- ・テンセグリティ型空間構造－ホワイト・ライノー (川口研究室・藤井(明)研究室)
- ・プレキャスト・シェル施工実験棟－ミニ・ライノー (川口研究室・藤井(明)研究室)
- ・空間構造の新しい展開 (川口研究室)
- ・アーチ構造の座屈実験装置 (川口研究室)
- ・新型快速ヨット (Twin Ducks) と新型競漕用具の開発、そして浮体力学の研究 (木下研究室)
- ・プレロードとプレストレスを加えた補強土壁試験盛土 (古関研究室)
- ・地震断層変位による社会基盤設備の被害軽減に関する研究 (小長井研究室)
- ・持続生産のためのバイオマス資源の利用 (迫田研究室)
- ・車両空間の快適性評価 (須田研究室)
- ・スケールモデル走行実験装置と次世代の鉄道車両の運動制御 (須田研究室)
- ・ITS車両による道路路面計測 (須田研究室)
- ・構造偏心を有する架構の地震時応答 (中埜研究室)
- ・超小型模型試験体による簡易震動実験手法の開発 (中埜研究室)
- ・アクティブ/セミアクティブ免震システムの開発 (藤田(隆)研究室)

- ・半導体級シリコンの製造に関する研究 (前田研究室)
 - ・問題有害物質気体の分解除去装置の開発
(前田研究室・光田研究室)
 - ・既存不適格建造物の耐震補強を推進させる制度と技術
―途上国から先進国までを対象として―
(目黒研究室)
 - ・バイオマスリファイナリー (望月研究室・崔研究室)
 - ・射出成形現象の実験解析 (横井研究室)
 - ・水面におけるマイクロ波散乱特性の計測 (林研究室)
 - ・水中線状構造物(ライザー)の挙動解析 (林研究室)
 - ・地震に強い構造―オムニバス講演―
(耐震構造学研究グループ)
- (生産技術研究所)



コンピュータ・ネットワーク利用セミナーのお知らせ

情報基盤センターでは、コンピュータ・ネットワーク利用セミナーを以下のとおり開催します。是非ご参加下さい。

【第39回コンピュータ・ネットワーク利用セミナー】

タイトル

大学の情報化 その方向性と課題
―教育への情報化推進とポータルサイト―

日時

10月14日(火) 15時00分～16時40分(100分)

場所

情報基盤センター 4F 413 遠隔講義室

定員

40名

対象者

教育の情報化とポータルサイトに興味がある方
(ポータルサイト構築の経験のない方にも有益です)
(事務職員からの参加も歓迎いたします)

概要

大学における種々の情報化(eラーニング、学術情報、学務情報、シラバスなど)に関して、将来の方向性と課題、および情報化推進の鍵となるポータルサイト構築の考え方を、具体例を含めて分かり易く解説していただきます。

講師

株式会社システムゼウス

エグゼクティブコンサルタント Project Athena

福田昭和 氏

参加費

無料

参加申し込み

以下のURLの本セミナータイトルの中にある申し込みページからお申込み下さい。

<http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/Seminar/>

(参加申し込み数が定員に達し次第、締めきらせていただきます。)

(情報基盤センター)

≡ 事務連絡 ≡

人 事 異 動 (教 官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
15. 10. 1	谷 島 賢 二	(辞 職) 辞 職	大学院数理科学研究科教授
15. 10. 1	王 葆 彦	(退 職) 平成15年9月30日限り任期満了により退職した	大学院人文社会系研究科教授
〃	李 建 民	〃	大学院人文社会系研究科助教授
15. 10. 1	高 木 信 一	(採 用) 大学院工学系研究科教授	株式会社東芝研究開発センターLSI基盤技術ラボラトリー研究主幹
〃	日 暮 栄 治	大学院工学系研究科助教授	日本電信電話株式会社マイクロシステムインテグレーション研究所装1部主任研究員
〃	陳 弱 水	大学院人文社会系研究科教授	台湾中央研究院歴史語源研究所副所長
〃	村 越 隆 之	大学院総合文化研究科助教授	日本医科大学薬理学講座助教授
〃	竹 野 太 三	大学院総合文化研究科助教授	世界銀行コンサルタント
〃	二 通 信 子	留学生センター教授	北海学園大学 (経済学部) 教授
15. 10. 1	崔 恒	(任用更新) 任期は平成16年9月30日までとする	大学院新領域創成科学研究科助教授
15. 10. 1	高 橋 悟	(昇 任) 大学院医学系研究科助教授	医学部講師
〃	田 口 英 樹	大学院新領域創成科学研究科助教授	東京工業大学資源化学研究所生物資源部門助手
〃	森 正 樹	宇宙線研究所教授	宇宙線研究所助教授
〃	森 山 茂 栄	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設助教授	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設助手
〃	戸野倉 賢 一	環境安全研究センター助教授	大学院工学系研究科助手
15. 10. 1	香 川 豊	(配 置 換) 大学院工学系研究科教授	生産技術研究所附属材料界面マイクロ工学研究センター教授
〃	合 原 一 幸	生産技術研究所教授	大学院新領域創成科学研究科教授
15. 10. 1	市野瀬 英 喜	(転 出) 北海道大学エネルギー先端工学研究センター教授	大学院工学系研究科助教授
〃	西 村 清 彦	内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官	大学院経済学研究科教授
〃	矢 田 哲 士	京都大学大学院情報学研究科助教授	医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター助教授
〃	福 山 秀 敏	東北大学金属材料研究所附属材料科学国際フロンティアセンター教授	物性研究所物性理論研究部門電子物性領域教授
15. 10. 1	小 林 和 彦	(転 任) 大学院農学生命科学研究科教授	独立行政法人農業環境技術研究所地球環境部気象研究グループ研究リーダー
〃	林 知 更	大学院総合文化研究科助教授	北海道大学大学院法学研究科助教授
〃	御 厨 貴	先端経済工学研究センター教授	政策研究大学院大学大学院政策研究科教授
15. 10. 1	西 田 豊 明	(併任解除) 工学部電子情報工学科長の併任を解除する	大学院情報理工学系研究科教授

発令年月日	氏 名	異動内容（新官職）	旧（現）官職等
15. 10. 1	神 崎 亮 平	(併任解除) 大学院工学系研究科助教授の併任を解除する	筑波大学生物科学系教授
〃	香 川 豊	生産技術研究所附属材料界面マイクロ工学 研究センター長の併任を解除する	生産技術研究所附属材料界面マイクロ工学 研究センター教授
15. 10. 1	坂 井 修 一	(併 任) 工学部電子情報工学科長	大学院情報理工学系研究科教授
〃	鷺 田 清 一	大学院人文社会系研究科教授	大阪大学大学院文学研究科教授
〃	神 野 直 彦	大学院経済学研究科長 経済学部長	大学院経済学研究科現代経済専攻財政金融 講座財政金融課題研究分野教授
〃	西 村 清 彦	大学院経済学研究科教授	内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官
〃	神 崎 亮 平	大学院情報理工学系研究科教授	筑波大学生物科学系教授
〃	七 尾 進	生産技術研究所附属材料界面マイクロ工学 研究センター長	生産技術研究所物質・生命部門機能性無機 材料学分野教授
〃	相 澤 秀 昭	物性研究所助教授	独立行政法人物質・材料研究機構計算材料 科学研究センター第一原理反応グループ
〃	梅 原 出	物性研究所助教授	横浜国立大学大学院工学研究院助教授
〃	山 本 正 幸	遺伝子実験施設長	大学院理学系研究科教授
15. 9. 8	伊 藤 泰 男	(免) 原子力研究総合センター事務代理を免ずる	原子力研究総合センター教授



人 事 異 動 (事務官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
15. 9. 30	重 盛 和 也	辞 職	教育学部・教育学研究科専門員 (会計担当)
〃	吉 澤 吾 郎	〃	教育学部・教育学研究科会計掛長 (併) 理学系研究科等 (共同利用掛主任) 理学系研究科等共同利用掛長 (併)
〃	望 月 信 子	〃	社会科学研究所庶務掛長
15. 10. 1	平 野 浩 之	経理部主計課長	文部科学省大臣官房会計課専門官
〃	森 進	施設部整備計画課長	千葉大学施設部企画課長
〃	菊 池 健	施設部建築課長	施設部整備計画課長
〃	柳 潔	施設部建築課課長補佐 (研究所担当)	施設部建築課専門職員
〃	金 子 博	教養学部等教務課課長補佐 (後期課程・大学院担当)	総務部学務課専門員 (企画調査担当)
〃	大 谷 晴 美	総務部学務課専門員 (企画調査担当)	学生部学生課 (調査主任) 学生部学生課調査掛長 (併)
〃	石 井 好 和	経理部契約課専門員 (集中調達担当)	経理部契約課専門職員 (集中調達担当)
〃	久下谷 清 美	教育学部・教育学研究科専門員 (会計担当) 教育学部・教育学研究科会計掛長 (併)	教養学部等経理課用度掛長
〃	新 井 信 男	理学系研究科等 (共同利用主任) 理学系研究科等共同利用掛長 (併)	生産技術研究所経理課経理第二掛長
〃	小 林 誠	総務部人事課専門職員	柏地区経理課経理第一掛主任
〃	鈴 木 久 雄	施設部建築課専門職員	施設部建築課工事計画掛長
〃	齋 藤 修 一	施設部建築課専門職員	施設部建築課土木掛長
〃	内 藤 哲 男	施設部建築課工事計画掛長	施設部建築課設計第一掛長
〃	鳩 勝	施設部建築課設計第一掛長	施設部建築課設計第二掛長
〃	川 口 克 己	施設部建築課設計第二掛長	千葉大学施設部建築課第一工営係長
〃	江 川 豊	施設部建築課土木掛長	国立歴史民俗博物館管理部施設課工営係長
〃	市 川 賀 一	学生部学生課調査掛長	(日本学術振興会総務部研究者養成課研究者養成総括係長)
〃	西 澤 明 生	情報基盤センター共同利用掛長	医学部・医学系研究科司計掛長
〃	丹 下 藤 夫	情報基盤センターシステム運用掛長	情報基盤センターキャンパスネットワーク掛長
〃	部 正 規	医学部・医学系研究科司計掛長	東京外国語大会計課予算係長
〃	成 田 和 彦	医学部附属病院医療サービス課物流管理掛長	生産技術研究所経理課経理第一掛主任
〃	荒 井 智 典	農学系学術国際課研究協力掛長 農学系学術国際課国際交流掛長 (併)	農学系学術国際課国際交流掛長
〃	横 田 恭	農学系学術国際課留学生掛長	農学系学術国際課研究協力掛長
〃	宮 田 和 幸	教養学部等経理課用度掛長	情報基盤センター共同利用掛長
〃	門 馬 清 仁	社会科学研究所庶務掛長	独立行政法人国立美術館総務課人事係長 東京国立近代美術館庶務課人事係長 (併)
〃	山 本 浩	生産技術研究所経理課経理第二掛長	国立情報学研究所管理部会計課経理係長
〃	寺 田 浩 一	大分大学財務部財務課長	経理部主計課長
〃	西野尾 清 司	香川大学環境施設調整官	施設部建築課長
〃	渡 邊 和 明	信州大学施設部建築課長	施設部建築課課長補佐 (研究所担当)
〃	石 澤 剛	豊田工業高等専門学校会計課長	医学部附属病院医療サービス課物流管理掛長
〃	藤 井 敏 一	北海道大学施設部建築課課長補佐	施設部建築課専門職員
〃	小 松 陽 一	東京外国語大会計課予算係長	柏地区経理課用度第一掛主任

発令年月日	氏名	異動内容（新官職）	旧（現）官職等
15. 10. 1	落合 恭子	東京工業大学附属図書館情報管理課システム管理掛長	生産技術研究所総務課図書掛
〃	石黒 庸子	国立情報学研究所管理部会計課経理係長	教養学部等経理課経理掛主任
〃	白石 英司	独立行政法人国立美術館総務課人事係長 東京国立近代美術館庶務課人事係長（併）	総務部人事課人事事務集中処理室情報記録掛主任
〃	蠅野 明	（日本学術振興会総務部研究者養成課研究者養成総括係長）	薬学部・薬学系研究科教務掛主任

（備考）

- ・平成15年10月1日付けで、教養学部等教務課課長補佐 新妻智子、教養学部等教務課前期課程担当を命ずる。
- ・平成15年10月1日付けで、総務部学務課専門員（企画調査担当）金子 博の企画調査担当を免ずる。
- ・平成15年10月1日付けで、学生部学生課（調査主任）大谷晴美の調査主任を免じ、学生部学生課調査掛長の併任を解除する。
- ・平成15年10月1日付けで、情報基盤センター専門職員（スーパーコンピューティング担当）大日方一男の情報基盤センターシステム運用掛長の併任を解除する。
- ・平成15年10月1日付けで、情報基盤センター（情報業務主任）佐藤安一郎、情報基盤センターキャンパスネットワーク掛長に併任する。
- ・平成15年10月1日付けで、農学系学術国際課専門職員（留学生担当）高橋 忠の農学系学術国際課留学生掛長の併任を解除する。



障害のある学生への授業や実習の“情報保障”

“私達は身体に障害のあるお客様に快適で安全な旅行が出来るように特別なサービスをしています。世界中で30万人のお客様がこのサービスを利用しています”と国際線の飛行機のモニター画面にテロップが流れた。“東京大学は身体に障害のある学生に他の学生と同じように授業や実習が受けられるように快適で安心して教育が受けられます”と胸を張って言えるであろうか。東京大学の毎年の入学者のうち何らかの障害のある学生はまだ少ない。しかし、毎年のように東京大学に障害のある受験生が合格すると新聞もよく取り上げるが、その後の大学生活については報告することはない。例えば視覚障害の学生はどのように黒板の字やモニターテレビの映像を理解し、さらに実験・実習を受けるのであろうか。一方聴覚障害の学生はどのようにして教官の話しを理解するのであろうか。もし視覚や聴覚にも障害がある場合は教育はどのように援助できるのであろうか。東大に英国の物理学者のホーキング博士が安田講堂で講演した時は入口に階



段がありスロープが無いために車イスを持ち上げて講堂の中に入ってもらったことがあった。実は東京大学の建物や授業や実習は障害のある学生をほとんど想定していない。各学部では何らかの障害のある学生が存在すると、個別に工夫してきた。障害のある学生にも教育について“情報保障”を実現するべく取り組みが始まったが、我が国の大学で先んじて始めたわけではない。むしろ遅いぐらいである。全学のバリアフリー・ワーキング委員会が活動し、昨年より先端研にバリアフリー

支援準備室が出来、教育に関する“情報保障”の実現の努力が始まったところである。東京大学という総合大学こそが、その力量が発揮されるべきところであるが、いよいよというところであり、全学の理解と協力が必要である。さらに次のステップとして、附属病院には東京大学の学生で不幸にして癌、悪性リンパ腫などの死に直面する疾患で入院する場合がある。このような学生に対する援助は心理的にも情報保障の面でも全くない。このような観点でも一流の援助を目指して初めて真の総合大学といえるのではないか。

(大学院医学系研究科 加我君孝)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

◇広報室からのお知らせ

平成15年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL: <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No 1272

2003年10月8日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>